

2026年2月6日

PRESS RELEASE

報道関係各位



製造業に革命AI

札幌のヤブシタグループが開発！

製造業の受発注・見積もり制作指示まで ワンストップで担う 即戦力AI

ヤブシタグループ(本社所在地：北海道札幌市中央区、代表取締役社長：森 忠裕、グループ16社)は、ITコンサルティングなどを手掛ける株式会社ビヨンドソフトホールディングス(本社所在地：東京都品川区、代表取締役社長：曹 陽)と共同で、デジタルヒューマン正社員「新井あい」を開発し、国内唯一の冷凍・空調・暖房機器産業の展示会「HVAC&R JAPAN 2026」(2026年1月27日～1月30日、東京ビッグサイト)で初公開しました。

人口減少や人材不足が進む中、自治体や企業の現場では「担当者がいないと業務が回らない」「判断や対応が止まる」といった自治機能の衰弱が課題となっています。こうした課題を受けて、AIによる効率化や省人化を目的とするのではなく、時間や場所の制約を持たずに24時間・365日、いつでも、どこでも同じ品質で対応できる新しいサービスモデルを体現します。人間に代わってAIがどこまでの役割を担えるのか、人間では不可能なサービスをどこまで実現できるのかに期待が高まっています。

「看板」を出さず、AI社員との会話から始まる展示体験

新井あいは今回の展示会で初公開され、AI社員に来場者対応を任せることで、来場者の足を自然と止めて対話を創出していました。

開発の背景には、人口減少や人材不足が進む中、自治体や企業の現場では「担当者がいないと業務が回らない」「判断や対応が止まる」といった自治機能の衰弱が課題がありました。AIによる効率化や省人化を目的とするのではなく、時間や場所の制約を持たずに24時間・365日、いつでも、どこでも同じ品質で対応できるサービスモデルを体現します。デモ展示にとどまらず、今後は当社のAI正社員として受発注対応や見積作成のほか、製作指示や輸送の段取りといった段階的な展開を見据え、機能拡張を進めていく計画です。



▲看板なしでAI社員がお出迎えする
ヤブシタグループの展示スペース

AI社員・新井あいの特徴

状況に合わせた言葉を即時生成することで「人間との対話感覚に近い体験」を提供

最大の特長は、人間の言葉を理解するだけでなく、その場の状況や文脈に応じた対話が成り立つことです。従来のAIアバターやロボットの多くは、定型シナリオや想定質問への応答が中心でしたが、今回開発した新井あいは、人の発話を理解した上で、言葉の意味を解析し、状況に合わせた言葉を即時生成することができます。そのため、AIながらも“人間と対話している感覚に近い体験”を提供可能です。

会話と連動して動く「自律型デジタルヒューマン」

音声で答えるだけでなく、会話内容に応じて「身振り」「手振り」「表情の変化」「視線」「姿勢」を自律的に生成・制御します。言語理解と連動して自動的に表現する仕組みで、AIながらも説明内容や話題に応じた自然な振る舞いが可能です。

平均3秒から5秒で応答する「高速レスポンス」

質問を受けてから3秒～5秒程度で回答します。「話し終わりの判断」「音声の文字変換」「内容理解」「回答生成」「音声への再変換」「CG表示・通信処理」といった複数の工程を短時間で同時処理し、人間に近い会話やテンポを再現します。



私たちは、AIを「効率化」や「省人化」を目的とする道具ではなく、人間では担いきれなくなった役割を引き受ける“正社員”として迎え入れたいと考えています。人が判断や創造に集中できる環境を守るために、時間や場所に縛られず、同じ品質で支え続ける存在が必要です。デジタルヒューマン正社員「新井 あい」は、その役割を担うために誕生し、今回の展示会のプレゼンテーションでは存在感を発揮しました。人間とデジタルが対立するのではなく、共に働き、支え合う関係をどう実装するか。今回の取り組みは、その未来像を“構想”ではなく、“現場で使える形”として示す挑戦です。今後は受発注から製作指示までAIが担い、人間は人間にしかできない役割に集中する体制を構築していきます。

ヤブシタホールディングス株式会社 代表取締役 森 忠裕

取材のお申し込み・本フレスリリースに関するお問い合わせ

ヤブシタホールディングス株式会社
広報担当：山田(080-1165-8563)

〒060-0001
札幌市中央区北1条西9丁目3番1号 南大通りビルN13階



当社やグループ企業については
こちらからご確認ください